上高井戸二丁目二番所在民間信仰石造物

［登録年月日］平成一一年一月二七日
［種別］有形民俗文化財（信仰）
［名称］上高井戸二丁目二番所在民間信仰石造物
［点数］三基
［所有者等］個人
［所在地等］上高井戸二―二―四一

有形民俗文化財（信仰）

上高井戸二丁目二番所在民間信仰石造物

これら三基の石塔はかつて、上高井戸天神社の参道に造立されていたもので、数回の移転ののち現在地に安置された。三基はいずれも上高井戸村の庚申講によって造立された庚申塔で、右から延宝元年（一六七三）銘三猿像、正徳六年（一七一六）銘青面金剛立像、享保一三年（一七二八）銘青面金剛立像である。

右端の三猿像は板碑型（安山岩）で、三猿と岩座の部分は残っているが主尊部とその周辺が剥落しており、主尊が何らかの原因により欠失したものと思われる。

中央の青面金剛立像は舟型浮彫（安山岩）で、石塔の上部中央にアーンク（胎蔵界大日如来の種子）が配されている。これは庚申塔としては比較的珍しいが、銘文に見える「導師尊海」の宗派との関連を考える上で重要である。

左端の青面金剛立像は笠付角柱型（凝灰岩）で、国郡村名が記されているのは本石造物群で唯一の例である。

三基の庚申塔には、いずれも供養者の名前が刻まれている。特に二基の青面金剛立像には供養者の姓名が刻されており、村落構成や系譜を知る上で重要である。

本庚申塔群は上高井戸二丁目一一番所在の宝暦四年（一七五四）銘青面金剛立像とともに、江戸時代前期から中期にかけて造立されたもので、同時代における本地域の典型的庚申信仰石塔の様式を示すものであり、当時の上高井戸村の信仰や構造等を考える上で重要な資料である。

【文化財所在地】